

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座 731-677
 発行人 梶山広美
 編集人 山田 真

No.417 目次

- ◆法人設立30周年記念式典が
開催されました…………… (2)
- ◆平成28年度
「検査説明・相談のできる
臨床検査技師育成講習会」を開催して… (3)
- ◆平成28年度スポーツ大会・懇親会報告… (4)
- ◆地区だより…………… (5)
- ◆生物化学分析研究班 基礎講座に参加して… (6)
- ◆微生物検査研究班 基礎講座に参加して… (6)
- ◆平成28年度病理細胞検査研究班
基礎講座に参加して…………… (7)
- ◆尾張東地区・一般検査研究班合同研修会… (8)
- ◆尾張南地区研修会…………… (8)
- ◆基礎講座・研究会…………… (9)
- ◆AICCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第45回) …………… (10)

平成28年度 愛臨技精度管理事業部の活動について

愛臨技精度管理事業部長 佐野 俊一

このたび、平成28、29年度公益社団法人愛知県臨床検査技師会の精度管理事業部長を仰せつかりました愛知医科大学病院の佐野です。精度管理事業についてはこれまで精度管理事務局員、精度管理担当理事として関わってまいりました。これらの経験を活かし精度管理事業部の活動がより魅力的なものになるよう尽力いたしますのでよろしくお願ひします。

精度管理事業部は学術部門に属し、事業部員として学術担当副会長、精度管理事業部長、精度管理担当理事、各研究班精度管理担当者及び数名の事務局員から構成されています。そして愛知県内の医療関連施設への臨床検査精度向上の推進ならびに支援に関する事業を遂行することを目的としています。

なかでも精度管理調査は事業の要となるものですが、事業案や予算案の検討は前年の10月から始まっており、これらを含めると実に1年半かけて取り組んでいることとなります。具体的な活動としては、4月は年間スケジュールの決定、5月から6月は調査試料や設問の準備、手引書の作成、7月から8月はシステムの設定や試料発送、9月から10月は調査の実施、集計・評価、報告書の作成、11月は結果検討会の開催、12月から2月は精度管理総括集の作成、3月は精度管理報告会の開催と、事業部員の努力や協力なしでは成り立たない事業です。

このらぼニュースが皆様のお手元に届く頃には今年度の結果検討会も終わっていることと思います。これは全国の都道府県技師会で唯一、愛知県だけが実施しているサポート事業で、単にデータ解離の是正だけではなく、施設が抱えている問題点を相互に確認し解決策を導き出す過程をサポートする場であると考えています。結果検討会に参加されたご施設からは毎年、『参加して良かったです。』というコメントを頂く半面、ご施設の事情でなかなか参加できない施設もあり、開催時期・場所を含め、そのあり方を検討していく必要があると思っています。やむを得ず欠席となったご施設は基幹施設担当者や研究班に気軽に相談していただければ幸いです。なお基幹施設の担当者や連絡先は当会HPから検索できますので是非ご利用ください。

さて、今年度の活動も残すところ総括集発行と精度管理報告会の開催となりました。今年度の報告会は平成29年3月11日(土)に名古屋第一赤十字病院で開催します。「eラーニング」に関する講演会も同時に開催する予定ですので、多数のご参加をお待ちしております。

法人設立30周年記念式典が開催されました

庶務部長 夏目久美子

10月29日(土) 栄ガスビル5階キングルームにて、公益社団法人愛知県臨床検査技師会法人設立30周年記念式典が執り行われました。相山広美会長から30周年を迎えるにあたってこれまでの歴史を振り返り、諸先輩方のたゆまない努力によって着実に発展を遂げ、今日の技師会があること、この伝統ある当会をさらに発展させるべく邁進するとの式辞がありました。愛知県知事、日臨技会長、名古屋市長、愛知県医師会長、愛知県病院協会会長から祝辞をいただき、続いて表彰がありました。知事表彰は森田秀夫氏(社会医療法人宏潤会大同病院)、藤田 孝氏(藤田保健衛生大学病院)が受賞され、特別表彰として荻津直通氏、榎原正喜氏、大江幸雄氏が受賞されました。また感謝状が株式会社スズケン様に贈呈されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

式典に先立ちまして、東京農業大学農学部教授 長島孝行先生による「バイオミクリーの可能性：自然を真似る、自然を活かす!」と題して、記念講演会が行われました。



平成28年度「検査説明・相談のできる臨床検査技師育成講習会」を開催して

組織部長 牛田 展浩

今年度で3年目となる「検査説明・相談のできる臨床検査技師育成講習会」が平成28年11月5日(土)、6日(日)、株式会社カークにて開催されました。この講習会は3年間で会員の一割、愛臨技においては300名の受講者数を目標としておりました。初年度こそ114名の参加がありましたが、昨年度は60名、今年度は30名と徐々に減少し、目標を下回る結果となってしまったことは残念に思います。

検査についての説明は、一昔前までは医師や一部看護師のみが行ってききましたが、臨床検査技師もチーム医療の一員として認知されるために、積極的に患者さんにかかわっていくことが求められています。この講習会のプログラムを通して検査説明に必要な知識及び技術を習得し、もって臨床検査技師のチーム医療参画の質的向上を図ることが目的とされ開催されました。

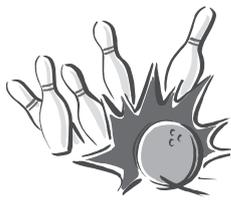
2日間にわたる講習では、患者さんに向き合うための接遇の基礎や臨床心理士からの患者心理の読み

解き方など基本的な内容から、実際に検査説明を行うことになった病院の取り組み、検査データの見方など様々な角度から検査説明に資する講演がされ、受講者の皆様は全員真剣に聞き入っていました。特に実際の検査説明を想定したロールプレイでは、検査技師役、患者さん役に分かれ、手元の検査データから説明を行う様子を録画、再生し、「ここはこうした説明の方がよかったのでは」、「こういう話し方のほうが患者さんに安心感を与えるのでは」など様々な意見が出て、熱い討論が繰り広げられました。

今回受講された皆様がこの講習会で学んだことを活かし、日々の業務の中で患者さんや他の臨床検査技師及び他職種の医療スタッフに対しても「検査説明・相談のできる臨床検査技師」となっていただけのように期待しております。

最後に、開催にあたって講師を快くお引き受けいただいた先生方、企画や実務にご協力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。





平成28年度スポーツ大会・懇親会報告



組織部長 牛田 展浩

去る10月22日(土)に第39回愛臨技スポーツ大会・懇親会がスポーツ名古屋及び浩養園にて開催されました。この会は、各地区、学術部の会員並びに賛助会員の方々の参加を頂き、ボーリングで汗を流すことを通じて交流を深めようと毎年行われています。良いスコアで景品を手にした方、日頃行っていない運動に悪戦苦闘の方など、普段の業務中での付き合いとは違う一面が見られたと思います。スポーツの後は懇親会でバーベキューをしながら冷たいビールを片手に親睦を深め、大いに盛り上がりました。今後も会員の皆様同士の横の繋がりの強化をする行事を企画していきます。最後に、ご参加頂きました方々にはあらためて感謝申し上げます。

参加者数 ボーリング 120名(会員74名、賛助会46名) 懇親会 100名(会員52名、賛助会48名)



スポーツ大会に参加して(春日井市民病院)

26年目 血液・輸血担当 神野 洋彰

春日井市民病院は今回の大会に1年目&2年目の5名が参加し、個人準優勝&ブービー賞を頂きました。この大会を『総なめ』にしたと言っても過言ではありません(*^^)v。この調子で例会や各学会にもどんどん参加し、学術的にも『総なめ』を期待します。

1年目 細菌担当 伊藤 彰吾

このような会は今回初参加でしたが、久しぶりに会う大学の友人と各々の現状や普段は知りえない他の病院の話聞くことができ、とても有意義に過ごせたと思います。残念ながら初対面の方とは話す機会を設けることができなかつたので、次回にこのような機会があれば、また参加したいと思います。また、個人的にも賞をいただくことができ、思い出に残る会となりました。ありがとうございました。

1年目 生化学担当 吉崎 まゆ

他の病院の方々と話す機会がありとても有意義な時間を過ごすことができました。また、大学時代の友人と久しぶりに再会でき懐かしく思いました。とても楽しい1日でした。またこのような機会があれば参加したいと思います。

2年目 生理担当 後藤 桃

懇親会では、普段関わる事があまりない他院、他部署の方々とお会いでき、仕事のこと、それ以外のことなど様々なお話を聞ける非常に良い機会でした。2回目の参加でしたが、昨年よりも多くの方とお話することができ、また違った楽しさがありました。このような機会を大切にしたいと思います。

2年目 血液・輸血担当 古川 梓

今回のボーリング大会は初めて参加しましたが、想像以上の盛り上がりで驚きました。非常に楽しかったです。懇親会では、学生時代の先輩や後輩、初めて御会いする他院の方とも沢山お話しができ、このような機会に感謝したいです。今後このような機会には積極的に参加したいです。

2年目 一般・感染症検査担当 石堂 章太

今回で2回目の参加になるので、前回知り合えた方とも会話する機会があり、とても楽しい時間を過ごすことができました。懇親会では新たに多くの人とかかわる事ができたので、またこのような機会があれば参加して、人とのつながりを広げていきたいと思いました。



自然の残る尾張旭市より

独立行政法人 労働者健康安全機構 旭労災病院 谷川 直人

私が勤めております旭労災病院は名古屋市守山区と瀬戸市の中に位置する人口8万人ほどの尾張旭市にあります。大阪出身の私がこの地に来て驚いたのは市内には森林公園、城山公園、小幡緑地（東園）があって市中に緑の多い事でした。

それと市内を流れる一級河川の矢田川に優に50センチメートルを超える鯉が自然に多数生息している事でした。優雅に泳ぐその姿にびっくりしたものです。河川ですので大雨の時に流れて行かないかと心配になるのですがどうやら支流の入り江に安全な隠れる場所があるみたいで安心しました。

そんな自然の残る町の丘陵地にある当院ではこの

季節は検査室にカブトムシやクワガタムシが飛来して来ます。旭労災病院は地域の基幹病院として地域の方々に愛されると共に労災病院グループの使命として産業衛生や労働災害にも広く対応しています。特に窯業の盛んな瀬戸市と隣接しているためにじん肺健診やその治療には力を入れています。3年後には建て替えられた新病院となります。今後とも地域社会への貢献につながるよう努めて行きたいと思えます。

追伸、当院の近くにある城山公園にはお城の形をしたレストハウスがあります。お近くに来られた際は良ければお立ち寄り下さい。



生物化学分析研究班 基礎講座に参加して

藤田保健衛生大学病院 江部 美紀 栗林 真子

平成28年10月16日(日)、刈谷豊田総合病院にて開催された生物化学分析検査研究班 基礎講座”分析の基礎と病態解明”の勉強会に参加させていただきました。午後からは2つの症例を用いて、異常データを抽出し、その所見から考えられることや追加すべき検査などを、グループで話し合い症例マップを作成しました。4月に入職し、まだ知識も浅い私たちが積極的に話し合いに参加できるかどうか不安でしたが、他の病院の方々と意見を交わしながら作ることができ、普段の忙しい業務の中で考えることのできない病態の原理やつながりを改めて考える良い機会となりました。今回の研修で得られた知識を生かしながら、日々の業務に取り組んでいくとともに、今後も積極的に勉強会に参加しスキルアップできるよう努力していきたいと思えます。

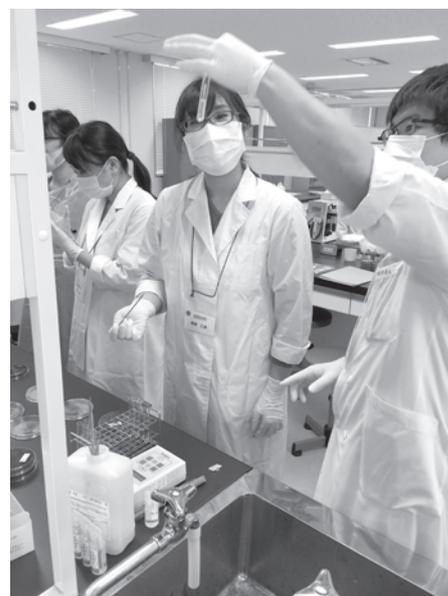
微生物検査研究班 基礎講座に参加して

名古屋第一赤十字病院 長村 陽子

今年から微生物検査に移動となり、微生物検査研究班の基礎講座は初参加となりました。微生物検査は感染症の起原因菌を推定し、より良い治療の選択を行うための検査です。結果報告までに塗抹・培養・菌名同定・薬剤感受性検査などいくつもの工程を経ますが、どれも知識とテクニックがなければ正しい結果報告ができない検査です。そのため、“いくら学んでも知識が足りない、患者さんにとって最も適切な結果報告ができていないか不安でしかたない”そんな気持ちでいっぱいになりながら日々検査を行っていました。そんな私にとって基礎講座は様々な現場からの意見や知識、テクニックを分けてもらえる貴重な時間でした。

今回の基礎講座では、午前は班員の方々の知識や経験を踏まえた講義を、午後からは午前中の講義を活かした実習を受けました。午前の講義ではグラム染色・分離培養・菌名同定・POCTでの注意点や活用法をお話いただきましたが、合間に実際に施設で経験されたことを快活にお話ししてくださったので、経験の浅い私でもよく理解でき資料に書き込む手もサクサク進みました。午後の実習では“わからないことばかりだったらどうしよう”と不安でいっぱいでしたが、参加者2人につき班員の方が1人ずつついてくれて、どの班員の方も私たちのすぐそばで楽しそうに興味関心をもって実習を行ってくれたため、そんな不安もすぐなくなりました。疑問を投げ掛ければ、解決するために誠心誠意で対応してくださる班員の方々のこの姿勢があったおかげで、私たちが臆せず質問ができました。むしろ、あまりに対応が良いために質問をしすぎてしまったくらいです。初心者にとって大変恵まれた環境で学ぶことができ、まさにサブタイトルにあった「機械じゃない検査を学ぶいい機会」でした。

最後になりましたが、このような素敵な基礎講座に参加する機会を得られて感謝します。この経験を職場で活かしていけるよう、書き込みだらけのテキストを反芻し、日々努めていきたいと思えます。



平成28年度 病理細胞検査研究班 基礎講座に参加して

JA愛知厚生連江南厚生病院 河合麻衣子

平成28年10月16日(日) 名古屋大学医学部にて開催されました病理細胞検査研究班基礎講座に参加させていただきました。

講義では乳腺の解剖学や遺伝学、普段携わることのないエコーやマンモグラフィーなどの画像検査を知ることができ、とても興味深く勉強することができました。

実習においてはクリオスタットを用いた薄切やFISHの蛍光顕微鏡での観察を行いました。もちろん、私は技術がないため全然うまく出来ずに悪戦苦闘しておりましたが、講師陣の手厚いご指導により、機械の特性から薄切のコツまで手取り足とり教えていただいたので、すぐに出来るようになったと自負しております。普段病理検査には従事しておらず知識が全くない私ですが、基礎から丁寧に解説して頂けたことで病理への関心がさらに増し、もっと色々知りたいと思える大満足な勉強会でした。次の機会があれば是非また参加したいと思います。

JA愛知厚生連海南病院 泉原 準也

平成28年10月16日に名古屋大学医学部保健学科で開催された病理細胞検査研究班の基礎講座「乳腺の病理細胞検査学の基礎を学ぶ」に参加しました。

私は今年4月から病理部に配属され、知識・技術ともにまだまだ未熟で今回の基礎講座を楽しみにしていました。

午前の講義では、乳腺の基礎的な解剖学から始まり、超音波画像・マンモグラフィーといった画像所見と細胞学・組織学を比較しながら疾患の説明、超音波検査士からみた乳腺超音波検査の見方、乳癌の遺伝子学とHER2 (FISH) 法についての講演でした。超音波やマンモグラフィーなどの画像所見は普段なかなか見ることがなく、今回の講義で様々な乳腺疾患における画像所見を拝見することができました。遺伝子学の講義は基礎的な内容から、実際行われている検査方法・判定の仕方等を学びました。

午後からは乳腺組織の凍結標本の理論と作製のコツという講義で、ルーチン業務でやっている事とは異なった方法や工夫を勉強することができ、その後、迅速診断凍結切片の薄切実習がありました。講義で学んだことを実際に薄切しながら体験し、また他施設の先生方と話したり、技術を拝見したりできたことは、今後の業務において大変有意義なものであり、自身の技術の幅を広げる貴重な経験となりました。このような勉強会の機会を設けていただいた病理細胞検査研究班の方々、多忙な中で講演をしていただいた先生方に感謝いたします。



基礎講座

生殖医学検査研究班

専門教科：20点

日時：平成29年2月5日(日) 10:00～15:00

場所：社会医療法人財団新和会 八千代病院
2階 大会議室

テーマ：「少数精子の凍結保存」
ビデオディスカッション

講師：可世木レディースクリニック 宮井 秀峰
社会医療法人財団新和会 八千代病院
小笠原 恵

講演1：「抗核抗体と多前核について」

講師：医療法人 浅田レディースクリニック
大野 浩史

講演2：「AZFについて」

講師：株式会社 医学生物学研究所 MBL
営業部 中日本エリア 手嶋 歩美

フリーディスカッション：

司会：藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院
伊藤 裕安

参加費：無料（昼食は各自ご用意ください）

フリーディスカッションでは、生殖業務全般について意見交換します。問題点、疑問点などありましたら事前にメールでお知らせください。

参加人数把握のため、参加される方は下記まで施設名、氏名をご連絡ください（メールの方には返信いたしません）。

小牧市民病院 臨床検査科 藤田 京子

mail: seisyoku290205@gmail.com

TEL (0568) 76-4131 内線5283

研究会

生理検査・病理検査研究班合同

専門教科：20点

日時：平成29年1月14日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋第二赤十字病院 研修ホール

テーマ：乳がん診療に関わる臨床検査

超音波検査と病理検査の役割を知るために

講師：

1. 病理レポートの理解を深める
～サブタイプ分類HER2検査を理解するために～
愛知県がんセンター中央病院

柴田 典子 技師

司会：大雄会 総合大雄会病院

西谷由美子 技師

2. 乳線超音波画像の読み方、捉え方

JCHO 中京病院 加藤 鮎美 技師

司会：半田市立半田病院 村雲 望 技師

3. 実際の症例で考えてみよう！

超音波検査

名古屋第二赤十字病院 石神 弘子 技師

病理検査

名古屋第二赤十字病院 長田 裕之 技師

司会：名古屋大学大学院 医学系研究科

橋本 克訓 技師

内容：乳がん診療に大きな役割を占める超音波検査と病理検査に携わる技師の方々がお互いの検査結果レポートにより理解を深めるために、サブタイプ分類のHER2遺伝子についての講演と超音波画像の読み方・捉え方の講演を企画しました。また、実際の症例を見て皆さんと一緒に考えたいと思います。病理検査、生理検査に携わる技師の方がぜひ御一緒に参加ください。お互いの所見をフィードバックし合いながら学ぶ機会にしたいと思います。

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第45回)

愛知県臨床検査標準化協議会（Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS）は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物、「呼吸機能検査における手引書」についてご紹介いたします。

呼吸機能検査を必要とする被検者がどの医療機関でもどの検査者でも同レベルの結果が得られることにより、医療の質の向上につながるため、この手引書が皆さんに広く利用されるためガイドラインを作成しました、是非ご活用ください。今回は“マウスピースのくわえ方”を抜粋しました。

詳しい内容、購入方法については、公益社団法人 愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

V. 呼吸機能検査の準備 3. マウスピースのくわえ方

3. マウスピースのくわえ方

上手にくわえられているかを確認し、マウスピースをくわえた状態で口呼吸の練習をする。そうすることにより、実際の検査での呼吸がスムーズとなる。できない時には、「フーと息を吐いてください。」と、まずは吐かせてから吸わせることにより口呼吸を促す。

マウスピースはつば付きのシリコン製マウスピース（図 11）または円筒状の紙マウスピース（図 12）を使用する。

高齢者や顔面に麻痺のある被検者など漏れが生じやすい場合や、FRC、DLco など精密検査の際はシリコン製マウスピースを使用する。

1) シリコン製マウスピースのくわえ方

周りは唇と歯ぐきの間に、でっぱった部分は歯で軽く噛んでくわえさせる。唇をしっかり閉じて横から息が漏れないようにする。舌で穴を塞がないように説明する。また、ゆるみのある入れ歯は、はずしてからくわえさせる。

2) 紙マウスピースのくわえ方

「唇を突き出すようにくわえてください」と指示し、隙間がないようにくわえさせる。紙マウスピースを噛んでつぶさないように注意する。また、舌で穴を塞がないように舌を紙筒の下に置くように説明する。また、ゆるみのある入れ歯は、はずしてからくわえさせる。

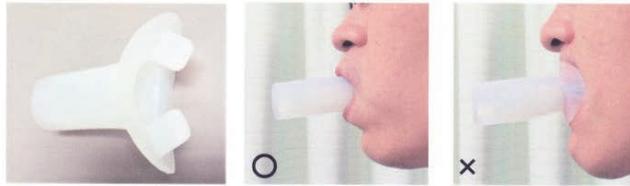


図 11 シリコン製マウスピースとくわえ方

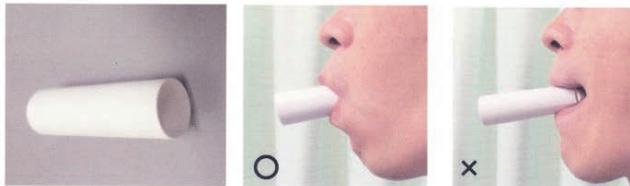


図 12 紙マウスピースとくわえ方